

# 5種混合ワクチンの接種を受けられる方へ

## (百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオ・ヒブ)

### 1. 病気について

病気	感染経路	症状、合併症など
百日せき	百日せき菌の飛沫感染で起こります。	はじめは風邪のような症状が続いてせきがひどくなり、連続的にせきこむようになります。せきのあとに急に息を吸い込むので、笛をふくような音が出ます。 乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ) けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。
ジフテリア	ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。 感染した10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。	のどや鼻に感染し、症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2〜3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経まひを起こすことがあるため注意が必要です。
破傷風	土の中にいる菌が傷口から体内に入ることによって感染します。 ※土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。	菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。
ポリオ (急性灰白髄炎) 「小児マヒ」	口から入ったポリオウイルスは咽頭や小腸の細胞で増殖します。小腸の細胞ではウイルスは4〜35日間(平均7〜14日間)増殖するとされています。増殖したウイルスは便中に排泄され、再びヒトの口に入り抵抗力(免疫)を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。 ※予防接種の効果で昭和55年を最後に国内での自然感染は報告されていませんが、インド、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアなどの流行国で日本人がポリオに感染したり、日本にウイルスが入ってくる可能性があります。	ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広まり、麻痺を起こすことがあります。ウイルスに感染すると100人中5〜10人は、かぜ様の症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。 また、感染した人の中で、約1,000〜2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。
細菌性髄膜炎 (Hib 髄膜炎)	せきやくしゃみなどを介して感染する飛沫感染です。 感染してもそのほとんどは症状を起こしません。一部、細菌性髄膜炎や心膜炎、肺炎などを起こします。	乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす原因の半分以上を占めているのがヒブです。髄膜炎は発熱や嘔吐、けいれん(ひきつけ)などの症状で始まり、重症化しやすく、治療を受けても亡くなることがあります。

### 2. 5種混合ワクチン予防接種の受け方

【対象年齢】 生後2か月〜7歳6か月になる前日まで

【接種方法】

下表のとおり接種してください。

	標準的な接種期間	接種間隔・接種回数
1期初回	生後2か月から7か月に至るまで	20日以上(標準的には27から56日)の間隔をおいて、3回接種する。
1期追加	1期初回終了後、6か月から18か月までの間隔をおく	1期初回3回目終了から6か月以上の間隔をおいて、1回接種する。

裏面もご覧ください。

### 3. 予防接種不適合者（次の方は接種を受けないでください。）

- (1) 明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- (2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) このワクチンの成分によってアナフィラキシー(通常接種を受けた後、30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことが明らかな方
- (4) その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと判断された方

### 4. 予防接種要注意者（次の方は接種を受ける前に、医師にご相談ください。）

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- (2) 過去に予防接種を受けた後、2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- (3) 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- (4) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方
- (5) このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

### 5. 予防接種を受けた後の注意・副反応（接種を受けた後は以下の点に注意してください。）

- (1) 予防接種を受けた後しばらく(30分間程度)は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、接種した医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 接種を受けた後24時間は、高熱やけいれんなどの副反応がおこる可能性があります。出現した場合は、速やかに接種した医師の診察を受けてください。
- (3) 接種部位は清潔に保ちましょう。発熱などもなく、体調がよければ、接種日当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- (4) 接種日当日は激しい運動はさけてください。その他はいつもどおりの生活で結構です。
- (5) 接種後の主な副反応としては、注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)など局所の反応と、発熱があります。また重い副反応としてショック・アナフィラキシー様症状(0.1%未満)、脳症(頻度不明)、けいれん(0.4%)があります。
- (6) 接種を受けた後1週間は体調に注意しましょう。また、接種を受けた後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは、接種した医師にご相談ください。

### 5. 予防接種健康被害救済制度について

重篤な副反応が出現する頻度は極めてまれですが、みなさんが安心して予防接種が受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

万が一、重篤な副反応が生じた場合で厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期接種によるものと認定したときは、法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

問合せ先	〒570-0033 守口市大宮通1丁目13番7号(守口市市民保健センター内) 守口市健康福祉部健康推進課	TEL 06-6992-2217
------	------------------------------------------------------------	------------------